



## 【プロフィール】

### 1 ゆみうみうまれ&リザ・マナロ滞在制作

#### (1) ゆみうみうまれ

兵庫県伊丹市出身。12歳から大阪でバレエを学び、毎年大阪フェスティバルホールの舞台に出演。神戸大学に進学し、中学校・高校の体育教員免許を取得。さまざまな舞踏ワークショップ、モダンダンスグループに参加した後、大駱駝艦（だいらくだかん）に入団し、東京、奈良、メルボルン公演に参加。大駱駝艦内の女性グループ桃夭会に所属し、東北ツアーに参加。同時期、舞踊家、花柳幻舟の大阪公演、山形公演に参加し、大衆演劇を学ぶ。

1993年からオーストラリアメルボルンを拠点に、豪州国内はもとより東西ヨーロッパ、日本、中国、香港、マレーシア、インドネシア、ニュージーランド、南米等で公演を重ねる。

#### (2) リザ・マナロ

フィリピン出身のヴィジュアルアーティスト。フィリピンの美術大学を卒業後、イギリス、オーストラリア等で研修し、その後ビデオ・インスタレーション（ビデオを空間に投影し、空間全体を作品化して体験させる現代芸術）を中心とするヴィジュアル・アーティストとして活動を開始。

2012年からメルボルン大学にて研究を開始し、博士課程を修了。2015年までの10年間で、オーストラリアやフィリピンを含む6カ国のさまざまな都市で活動を展開。

ギャラリーでの展示やフェスティバル・イベント等への出展にとどまらず、パブリックアートの制作も多く手掛けている。

### 2 児玉北斗／木田真理子、藤本隆行、平野みどり (Mimicof)による滞在制作

#### (1) 児玉北斗

幼少期より両親のもとでバレエを始め、2000年ヴァルナ国際バレエコンクール（ブルガリア）ジュニア第2位入賞。同年よりサンフランシスコバレエスクール（アメリカ）留学を経て、アルバータバレエ（カナダ）入団。いくつかのバレエ団への移籍を経て、2012年からスウェーデン王立バレエのファースト・ソリスト。

2010年に小尻健太、山田勇気とともに project POINT BLANK を立ち上げ。2013年に JAPONdance project 立ち上げメンバーとして参加。青山学院高等部卒業。

#### (2) 木田真理子

大阪で生まれ、4歳からバレエを始める。2000年ローザンヌ国際バレエコンクールにてスカラシップ賞を受賞し、サンフランシスコバレエスクールに留学。2002-03年アルバータバレエ（カナダ）を経て、2004年レ・グラン・バレエ・カナディアンへ移籍、プレミア・ソリストとして活躍。

入団後すぐジャン・クリストフ・マイヨの「ロミオとジュリエット」のジュリエット役に抜擢された。その後、ジョージ・バランシン、マッツ・エック、オハッド・ナハリン、イリ・キリアン等の作品を踊った。

2007年高円宮殿下記念ローザンヌ・ガラ出演。2009年、スウェーデン・ヨーテボリバレエへ移籍。マッツ・エックの眠りの森の美女（オーロラ役）の演技で、ダンス・ヨーロッパ誌にて「2010年最優秀ダンサー」の1人に選ばれる。その後サシャ・ヴァルツ、ヨハン・イン



ガー、エレクトサンダー・エックマン、メディ・ワレスキー等の作品に出演。

2011年にはヨーテボリにて、東日本大震災のチャリティーコンサートを企画・開催した。

2012年スウェーデン王立バレエにファースト・ソリストとして移籍。スティン・セリス、ヨハン・インガー、エマニュエル・ガット、シャロン・エヤル等の作品に出演。

2013年マッツ・エック演出/振付「ジュリエットとロミオ」の世界初演でジュリット役を踊り大絶賛される。このジュリエット役でバレエ界のアカデミー賞と言われる2014年のブノア賞(Prix Benois de la Danse)女性ダンサー部門受賞。立命館大学産業社会学部卒。

### (3) 藤本隆行

インディペンデントディレクター、照明デザイナー。京都市立芸術大学美術学部卒業。1987年から2009年まで、京都を拠点に活動するアートグループ「dumn type」に参加。ほぼすべての作品制作に関わる。特に[S/N][OR][memorandum][Voyage]では、照明とテクニカルマネージメントを担当する。

2004年にMonochrome Circusの坂本公成とともに、LED照明を使ったダンス作品[Refined Colors]を企画・制作・発表し、世界十数カ国を公演ツアー。

2005年、ミュージシャン内橋和久、UAとのインタラクティブ・コンサート[path]の監督権LED照明+舞台デザインを担当(山口情報芸術センターYACMにて上演)。

2007年、シンガポールのTheater Worksにてディレクター(当時)のChoy Ka Faiによるパフォーマンス[Drift Net]に、照明+舞台デザインとして参加。また同年、山口情報芸術センターYACMにて、白井剛、川口隆夫、真鍋大度など9人のアーティストとともに[true/本当のこと]を製作し、企画・監督/照明+舞台デザインを担当し、その後世界公演ツアーを行う。

2009年から、鈴木ユキオ・内橋和久とともに、ダンスパフォーマンス[etude]を制作し、LED照明+舞台デザインを担当。2010年より、大阪・山本能楽堂にて、シテ方の山本章弘が企画する[光と照明による能舞台の陰翳]で古典能にLED照明をつける試みを始める。葵上、安達原、鉄輪、鶴飼、土蜘蛛、羽衣、海土、水の輪(新作能)の公演がある。

2013年、藤本隆行+白井剛名義で、パフォーマンス[Nude/砂漠の老人]を、あいちトリエンナーレで発表。

### (4) 平野みどり (Mimicof)

ドイツ/ベルリン在住の音楽家。京都府出身。大学をクラシックピアノ専攻で卒業した後に、ピアノを初めとするアコースティック楽器に加え、電子音やフィールドレコーディング、サンプリング、ボーカルなどを自在に操りながら多彩な音楽を作り出し、これまでにmidori hiranoとして2枚のアルバムを発表。

2008年にリリースされたセカンドアルバム「klo:yuri」は世界的に知られる老舗のニュース雑誌「TIME誌」で取り上げられた。また、イギリスの国営放送BBCのラジオ番組でも収録曲およびロンドンで行ったライブについて紹介されるなど、海外のメディアにおいても大きく認知された。自身の作品制作以外にも、国内外の映画のサウンドトラックを担当するなど映画音楽の分野にも活動の場を広げ、2008年2月にはベルリン国際映画祭主催の若手映画製作者向けプログラム「Berlinale Talent Campus」に作曲家部門では当年唯一の日本人として招聘される。

2008年以降はベルリンを拠点にヨーロッパ各地でライブパフォーマンスを数多く行っ



ており、2011年2月にはベルリンの大型フェスティバルクラブ・トランスメディアーレに出演を果たした。

現在は生楽器を主体にした楽曲を制作する midori hirano としての活動と平行しエレクトロニックミュージック的なアプローチを中心とした新しいソロプロジェクト MimiCof としてその表現の幅を広げている。

### 3 川口智子（鷗座）滞在制作

#### (1) 川口智子

明治期における、翻訳演劇受容を専門研究とする。劇作家・演出家の佐藤信（さとうまこと）氏に師事し、現代演劇やオペラなどの舞台芸術作品に演出助手、ドラマトゥルクとして関わる。

2008年東京芸大学大学院終了。同年からベケットの連続上演企画「ベケット・カフェ」を開始。また2010年にサラ・ケインの未発表戯曲上演企画「クレンズド・プロジェクト」を開始。2013年、香港のドキュメンタリー映像作家・卓翔（たくしょう）との共同企画 Cultural Exchange Dialogue 「Absolute Airplane（アブソルート エアプレーン）／絶対飛行機」交流ワークショップを香港にて実施。

2014年10月から「踊りに行くぜ！！」2にて「天使のうた（仮題）」制作、巡回公演を行い、同年12月には城崎国際アートセンターに滞在予定。

### 4 コルヌコピアエ滞在制作

#### (1) レジーヌ・ショピノ

フランスでの30年のキャリアにおいて、ヌーヴェルダンス（1980年代にフランスで発祥した現代舞踊で、現在世界的にとらえられているコンテンポラリー・ダンス先駆けとなったダンスの一連の潮流のことを指す）の創成から発展に深く関わる。

1986年から22年間、国立振付センター（ラ・ロシェル）の芸術監督を務める。デザイナー、ジャン＝ポール・ゴルチエとのコラボレーションが話題となる。コンテンポラリーダンスを大自然のリズムや諸要素と突き合わせ、ヨガをはじめとする古代からの複合的な身体の学と実践に力を注ぐ。

2008年、自身の独立カンパニー Cornucopiæ（コルヌコピアエ）を創設。

近年は、運動する身体への探求を、（口承など）語り継ぎの文化にある口語の力との関係から問い直し、拡張させ、ニュージーランドや日本、ニューカレドニアにおいて、研究と創作のプロジェクト《PACIFIKMELTINGPOT》（パシフィックメルティングポット）に取り組んでいる。

#### (2) 富田大介

2012年～2014年まで大阪大学大学院 国際公共政策研究科 特任助教。

これまでの論文は、

- ・土方巽の心身関係論－内と外の共通の環境（ミリュー）としての「器」－富田大介舞踊學（35）43-52 2012年12月
- ・ソーマティック・イクスプレッション（Somatic Expression）とは何か [ジェイミー・マヒュー ワークショップ報告書] 富田大介 美学芸術学論集（8）106-110 2012年3月



- ・習慣の原理についての一考察－心体操の理論的基礎付けに向けて－富田大介  
学位論文（博士）神戸大学大学院文化科学研究科 2011年3月
- ・P・ヴァレリーにおける運動的陶酔のメカニズム 富田大介  
美学芸術論集（6）21-37 2010年3月
- ・Contribution aux fondements théoriques de l'improvisation en danse - à travers une lecture des textes de Paul Valéry et d'Henri Bergson -富田大介  
学位論文（Master II）Université de Metz 2007年12月
- ・Devenir et réagencement - les modèles de création dans la danse contemporaine -  
富田大介（尼ヶ崎彬の論文をフランス語翻訳）  
Quant à la danse（4）34-38 2006年10月
- ・岩下徹 即興舞踊試論－H・ベルクソン『物質と記憶』の読解を通して－富田大介  
美学芸術学論集（1）52-65 2005年3月
- ・H・ベルクソン『物質と記憶』における意識の平面－岩下徹 即興舞踊論に向けてのスケッチ－富田大介  
学位論文（修士）神戸大学大学院文学研究科 2003年3月

## 5 篠田千明滞在制作

### (1) 篠田 千明

2005年多摩美術大学映像演劇学科卒業。大学在学中に同級生と小指値<koyubichi>を結成。2008年に快快（ファイファイ）に改名。2010年、チューリヒ・シアター・スペクタクル（スイス）にて演出作品『My name is I LOVE YOU』にて ZKB Patronage Prize（ルビを記載）2010（最優秀賞）受賞。

2012年作・演出作品『アントン、猫、クリ』にてトヨタコレオグラフィーアワード 2012ファイナリストに選出。同年快快を脱退。

2014年タイでの自身による企画『It's my turn』にて公益財団法人セゾン文化財団国際プロジェクト支援助成受給。2014年5月 テアター・デア・ヴェルト（ドイツ）レジデンス・プログラム、IETM（オーストラリア）アジアサテライトミーティング参加。2014年7・8月初の東京での公演『機劇～「記述」された物から出来事を起こす～』を発表。

## 6 白井 剛滞在制作

### (1) 白井 剛（しらいつよし）

1996～2000年「伊藤キム+輝く未来」に参加。

1998年に「Study of Live works 発条ト（ばねと）」設立。

2000年「バニョレ国際振付賞」、2006年トヨタコレオグラフィーアワード「次代を担う振付家賞」を受賞。

2006年「AbsT」を設立し、『しはに-subsoil』、『THECO-ザコ』を発表。ダンサーとしてユリー・ン（香港）振付『悪魔の物語』、伊藤キム『禁色』に出演するほか、アルデッティ弦楽四重奏団とのコラボレーション、ダムタイプの藤本隆行による『true/本当のこと』に参加。



2009年『blue Lion』、2010年に『静物画 -still life』を京都で発表。『静物画』は2011年に KYOTO EXPERIMENT、フェスティバル/トーキョーにて再演。また、山口情報芸術センター[YCAM]との映像プロジェクト『Choreography filmed: 5 days of movement』を行い、ネット上でのダンスの可能性を模索している。

2013年藤本隆行による「Node/砂漠の老人」に参加、横浜、名古屋、香港にて公演。

2014年京都芸術造形大学にてダムタイプ高谷史郎と「二重の影」を制作。

## **7 全国児童・青少年演劇協議会総会**

### **(1) 佐藤 結（さとうゆい）（制作）**

2010年、日本映画学校（現・日本映画大学）映像科編集ゼミ卒業。2012年、人形劇団クラルテ入団（制作部）。以降、制作として、幼稚園・保育園、学校公演、公共ホールでの公演に携わる。

2013年には、児演協（日本児童・青少年演劇劇団協同組合）関西支部として取り組んだ合同公演『空の村号』に制作として参加。

## **8 足湯プロジェクト**

参加者のプロフィールは現在依頼中